



身分の高い人のたとえ： 従順についての教え

教義と聖約 101：43 - 62
には、聖徒たちがミズー
リから追い出された理
由を説明するために与えられた
一つのたとえが述べられています。

わたしは神の戒めを疑問に思う ことがあるだろうか

あなたはこの僕たちのよう
に、戒めはほんとうに必要な
ものかと思ったことはありませんか。
このたとえは、主の戒めはわた
したちを守り、幸せな生活を送
れるよう助けてくれることを教
えています（モーサヤ 2：41；
教義と聖約 82：8 - 10 も
参照）。

戒めの必要性が分からな
い場合、わたしたちはどのよ
うなことができるでしょう
か。

- そのテーマについて研究し、
「それが正しいと感じ」られる
よう（教義と聖約 9：8）主に
助けを祈り求める。
- 過去に従順によって祝福がも
たらされたときのことを思い
出す。¹
- 「信仰が試されてから」理解で
きると信じ（エテル 12：6）、
信仰をもって行動する。

注

1. ニール・L・アンダーセン「人生に
とって霊的に重要な記憶」『リアホ
ナ』2020年5月号、18 - 22

たとえの中で、僕たちは見張り
台を築き始めますが、その後、
それは「必要がない」と判断
します（教義と聖約 101：49）。
しかし見張り台を築かなかつた
ために、敵が押し入り、果樹園
を壊しても、なんの警告も受けら
れませんでした。

ある身分の高い人が僕
たちに、果樹園に木を植
え、木の周りに垣を巡ら
し、見張り人が土地を見
渡せるよう見張り台を築
くように命じます。

僕たちは果樹園
に木を植え、垣
を巡らしますが、
見張り台は築か
ないことにしま
す。

予期せぬ敵が果樹園
を壊します。